
ピエロ

道化

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ピエロ

【コード】

N3521S

【作者名】

道化

【あらすじ】

あらすじ読む暇あるなら本文読めや！という文字稼ぎ。

ある世界を旅するサーカス団に「狂ったピエロ」と呼ばれた男がいた。

彼はその呼称の通り、狂っていた。

彼のすることは全てが残虐で、言動はもう人のそれでは無かった。ピエロは「喜」「楽」を与える存在の筈なのに。

団長は後にこう語った。

「彼は人間の類じゃなかったのかもしれない」と。

しかし、彼は人間だった。人間ではなくとも、ちゃんとした生物だった。

死んだのだ。

そのピエロは何を思い立ったのか、皆で昼飯を食べようと言う時に綱渡りを始めた。

小さくとび跳ねたり、大きくとび跳ねたり。その綱渡りの様は見事なモノだった。

全ての団員が、魅かれた。

だが、落ちた。頭から。

グシャっというトマトが潰れる様な音がしたのは、皆が「っあ」と言ってから数秒してからの様に思えた。

嫌なスローモーションが流れたのだった。

そのスローモーションの中、彼は笑っていた。団員の顔を見ながら。狂気に満ちた、笑顔。

「彼は、者であって物じゃない。だが、我々はこう考えた。これしか考えられなかった」

人間という皮を被った『きょうき』の塊だったのかもしれない。

その『きょうき』は狂喜と狂気を指す。彼は、感覚が狂っていたのだ。それでも、誰かに笑ってほしかった。驚いてほしかった。ただ、持っていた感覚が、狂気と狂喜だけだった。

彼の願望はただ一つ……笑ってほしかった。団長に。団員に。国の人に。世界の、皆に。笑ってほしかった。

「我々は、笑ってやりました。『なんの冗談だよ』、と。我々は彼を嫌っていたはずなのに、笑ってやりたい、そんな気持ちでいっぱいになりました」

団員の皆が彼に近寄っていった。生きててくれ、と思いながら。我々は笑ってやった。その笑顔に笑顔で返すのが、ピエロの役目だろうと。どうか、笑っていてくれと。だが、彼の顔は無かった。

無残に潰れていた。

団長は、泣いた。狂ったピエロの為に、涙を流した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3521s/>

ピエロ

2011年10月8日20時09分発行